

高齢男性における *Gardnerella vaginalis* による菌血症の一症例

◎尾方 一仁¹⁾、山口 真希¹⁾、村田 宏貴¹⁾、川内 匡¹⁾、福田 勝行¹⁾、井手 一徳¹⁾
長崎労災病院¹⁾

【はじめに】*Gardnerella* 属は *G.vaginalis* の1菌種のみであり、通性嫌気性のグラム不定で多形性を示す菌である。女性の膣内に常在しており、正常細菌叢のバランスが崩れた際に細菌性膣症(BV)に関与するとされている。今回、80代高齢男性の血液培養より、*Gardnerella vaginalis* を検出した症例を経験したので報告する。

【症例】89歳男性、自宅で転倒しているところを発見され当院へ救急搬送。搬送の3日前より38～39℃の発熱があった。体温38.1℃、脈拍71/分、SpO₂ 90%、胸部CTで空洞を伴う浸潤影があり、喀痰の結核菌群 LAMP 検査で陽性となった。活動性結核と診断され、県内の結核病棟を有する医療機関へ同日転院となった。

【細菌学的検査】搬送当日に採取した血液培養は33時間後および48時間後に陽性反応を示した。顕微鏡検査では、グラム陰性の短桿菌を確認。培養は35℃、5%炭酸ガスおよび嫌気条件で行った。ヒツジ血液寒天培地では48時間培養後に微小集落を確認した。カタラーゼ陰性、オキシダーゼ陰性。同定はBBL CRYSTAL NHを用

いて実施したが、十分な同定確率を得ることはできなかった。BD Phoenix PMIC/ID86 パネルおよび16SrRNA領域の遺伝子解析により *G.vaginalis* と同定した。感受性は栄研ドライプレートにストレプト・ヘモサプリメントを添加し5%炭酸ガスで48時間後にMIC値を測定した。

【考察】本症例における侵入門戸などは転院のため、特定は出来なかった。*G.vaginalis* はグラム不定菌であるため、生化学性状を用いた同定キットを用いる場合、キットの選択が重要となる。当院は婦人科領域の無い施設のため、本菌への知識・経験が不足しており、女性から検出される菌との認識を持っていないため、高齢男性から検出した本症例において同定が確定するまでに時間を要した。質量分析装置により、様々な細菌を早期に同定可能となったが、まだ十分な施設に備わっていない。早期に原因菌を確定できるよう様々な微生物への知識を備えて、補っていく必要がある。

連絡先：0956-49-2191